

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
	創造工学科 (情報工学分野)				4	8	7	
	創造工学科 (機械工学分野)				12	16	7	
	創造工学科 (電気工学分野)			4	4	8	7	
	創造工学科 (電子工学分野)				6	10	7	
	創造工学科 (建築学分野)				3	7	7	
	建設・生産システム工学専攻			6	4	10	7	
	電子情報システム工学専攻				2	8	7	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

情報工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=11&year=2020&lang=ja 機械工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=12&year=2020&lang=ja 電気工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=13&year=2020&lang=ja 電子工学分野： https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=14&year=2020&lang=ja 建築学分野：
--

<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=15&year=2020&lang=ja 建設・生産システム工学専攻</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=21&year=2020&lang=ja 電子情報システム工学専攻</p> <p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicSubjects?school_id=03&department_id=22&year=2020&lang=ja</p>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 理事（役員）名簿の公表方法

[https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo\(20200401\).pdf](https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/upload-file%20folder/02_%E4%BA%BA%E4%BA%8B/NewFolder/yakuinmeibo(20200401).pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	熊本大学長	2016年4月1日～ 2024年3月31日	理事長
常勤	豊橋技術科学大 学理事・副学長	2020年4月1日～ 2022年3月31日	研究・産学連携 情報システム
非常勤	東京大学教授	2014年4月1日～ 2022年3月31日	男女共同参画推進
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>高専機構として運用している Web シラバスシステム上で、シラバスを作成し、公表している。シラバス記載事項のガイドラインとして教務委員会策定の「シラバス記入要領」がある。</p> <p>2020年度のシラバスは、2020年2月7日までに教員が入力及び自己チェック、2月21日までに相互チェックを実施した。4月1日に新年度シラバスを公開し、一般からの閲覧を可能とした。</p> <p>授業の初回に、科目担当教員が学生にシラバスを印刷して配布するなどして説明している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>https://syllabus.kosen-k.go.jp/Pages/PublicDepartments?school_id=03</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>科目ごとに、試験やレポート、卒業論文などによる成績評価方法がシラバスに記載されている。これに従ってつけられた評点を教務事務システムで集計し、定期試験ごとに保護者に郵送で結果を通知している。年度末には、教員会議において評点を確認し、単位認定および進級認定している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績の分布状況について「学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」第7条の3に「学年及び学級における席次は、当該年度に履修した科目の評点に単位数を乗じ、その合計を履修した総単位数で除した点数(以下「加重平均点」という。)により決定する。ただし、釧路工業高等専門学校学則別表第1及び別表第2に定める進級及び卒業に必要な修得単位数には含まれないが単位認定は行う科目は加重平均点から除外する。」と規定しており、これを学生便覧に記載して配布している。この規定にもとづいて教務事務システムで各科目の評点を集計し、決定した席次を定期試験ごとに保護者に通知している。</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>学生便覧(39頁)に記載して配布 https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=111</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>卒業の認定方針について「学業成績の試験・評価及び進級並びに卒業の認定に関する内規」第8条に、 「進級及び卒業の認定は、原則として教員会議の議を経て、校長が行う。 2 進級及び卒業の認定にあたっては、次の各号の条件が全て満たされていなければならない。ただし、校長が特別の事情があると認めた場合は、この限りでない。 一 各科目の学年成績の評点が、60点以上である者 二 原則として特別欠席を含む欠席日数が年間出席すべき日数の3分の1を超えない者 三 原則として各科目の特別欠席を含む欠課時数が年間授業時数の3分の1を超えない者」 と規定しており、これを学生便覧に記載して配布している。この規定にもとづいて教員会議の議を経て校長が卒業の認定を行っている。</p>	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	釧路工業高等専門学校
設置者名	独立行政法人国立高等専門学校機構

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
収支計算書又は損益計算書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/documents/zaimusyohyoH30.pdf
財産目録	
事業報告書	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/H30jigyohokokusho1.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/kanjiikenH30.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の年度計画 対象年度:令和2年度)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/nendo-R2.pdf
中長期計画(名称:独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画 対象年度:平成31年(2019年)4月1日から令和6年(2024年)3月31日まで)
公表方法: https://www.kosen-k.go.jp/Portals/0/resources/information/chuukikeikaku-4th.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=84

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=433

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 創造工学科 スマートメカニクスコース 情報工学分野
教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311)
(概要) 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。 創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562)
(概要) 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・分野ごとに能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定します。 スマートメカニクスコース 情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りや情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な能力を修得した者。 情報工学分野 情報工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562)
(概要) 本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに「カリキュラムポリシー」を定めています。 また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。 創造工学科 1. 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成しています。 2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、高学年に進むに従い各分野ごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成しています。 3. 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成しています。 スマートメカニクスコース

情報工学分野と機械工学分野を融合し、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を修得できるようカリキュラムを編成しています。

情報工学分野

情報工学分野では、スマートメカニクスコースの中で、情報工学に関する知識、技術を総合的に学習し、ネットワークの仕組み、プログラミング技術、データベース技術、人工知能 (AI) 技術など、情報工学の基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

（概要）

本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めています。

創造工学科

1. 求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で

- ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……夢と創造性
- ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……意欲と努力
- ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人…意識と改革
- ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……敬意と協調
- ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……勇気と挑戦

スマートメカニクスコース

情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りする情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な技術者を養成します。本コースでは、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を吸収したい人の入学を期待しています。

情報工学分野

情報工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に大量の情報を効率よく「取得」「加工」「蓄積」「伝達」するなどの情報工学を中心とした技術者になるため、ネットワークの仕組み、プログラミング技術、データベース技術、人工知能 (AI) 技術など、情報工学の基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

1. コンピュータの動作原理やプログラミングに興味のある人
2. データベースやネットワークなどの IT の応用技術を修得したい人
3. 実践的な技術や専門知識を学習し、IT 社会に貢献したい人

学部等名 創造工学科 スマートメカニクスコース 機械工学分野

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311）

<p>(概要)</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiroct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・分野ごとに能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定します。</p> <p>スマートメカニクスコース</p> <p>情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りや情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な能力を修得した者。</p> <p>機械工学分野</p> <p>機械工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiroct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに「カリキュラムポリシー」を定めています。</p> <p>また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。</p> <p>創造工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成しています。 2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、高学年に進むに従い各分野ごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成しています。 3. 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成しています。 <p>スマートメカニクスコース</p> <p>情報工学分野と機械工学分野を融合し、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を修得できるようカリキュラムを編成しています。</p> <p>機械工学分野</p> <p>機械工学分野では、スマートメカニクスコースの中で、機械工学に関する知識、技術を総合的に学習し、力学、設計・製図、材料・加工、メカトロニクス、熱・流体、情報処理技術など、幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成していま</p>

す。
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めています。</p> <p>創造工学科</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>工学を学ぶための基礎学力を備えた人で</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……………夢と創造性 ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……………意欲と努力 ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人…意識と改革 ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……………敬意と協調 ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……………勇気と挑戦 <p>スマートメカニクスコース</p> <p>情報工学分野と機械工学分野を融合し、様々な機能を実現するために製品に組み込まれるコンピュータシステム技術、高度情報化社会を支えるプログラミング技術、人間と機械間の情報をやり取りする情報の流れを制御するためのシステム技術、人間と機械・システム間の橋渡しをするマンマシンインターフェース技術、機械とセンサーやコンピュータ技術を結合させて機械の高度化を図るメカトロニクス技術等を活用することができる、高度な技術者を養成します。本コースでは、それぞれ一つの専門分野を体系的に学び、その後もう一方の専門分野の知識を吸収したい人の入学を期待しています。</p> <p>機械工学分野</p> <p>機械工学分野は、スマートメカニクスコースの中で、特に「エネルギー」「情報」「機械材料」をつくり出す“ものづくり”などの機械工学を中心とした技術者になるため、力学、設計・製図、材料・加工、メカトロニクス、熱・流体、情報処理技術など、幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 機械が好きで、みずから新しい“ものづくり”に挑戦できる人 2. 人のために役に立ち、地球に優しい“ものづくり”に関心のある人 3. グローバルな視点に立ち、安全な“ものづくり”に貢献したい人

<p>学部等名 創造工学科 エレクトロニクスコース 電気工学分野</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。</p> <p>創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311）</p>

ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562)

(概要)

本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・分野ごとに能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献できる高度な技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

電気工学分野

電気工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

(概要)

本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに「カリキュラムポリシー」を定めています。

また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。

創造工学科

1. 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成しています。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、高学年に進むに従い各分野ごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成しています。
3. 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成しています。

エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に修得できるようカリキュラムを編成しています。

電気工学分野

電気工学分野では、エレクトロニクスコースの中で、電気工学に関する知識、技術を総合的に学習し、電気の基本から始まり、電気エネルギーの作り方や送り方、電気エネルギーを機械エネルギーに変える方法、機械やロボットの仕組みなど、幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成しています。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

(概要)

本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めています。

創造工学科

1. 求める学生像

工学を学ぶための基礎学力を備えた人で

- ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……………夢と創造性
- ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……………意欲と努力
- ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人…意識と改革
- ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……………敬意と協調
- ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……………勇気と挑戦

エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献出来る高度な技術者を養成します。本コースでは、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に学びたい人の入学を期待しています。

電気工学分野

電気工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に人々の暮らしを支える電気エネルギーの「生成」「伝送」「利用」などの電気工学を中心とした技術者になるため、電気の基本から始まり、電気エネルギーの作り方や送り方、電気エネルギーを機械エネルギーに変える方法、機械やロボットの仕組みなど、幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

1. 発電、送電、新エネルギーに興味のある人
2. 電波、放送、通信、画像処理に興味のある人
3. コンピュータ、ロボット、モータに興味のある人

学部等名 創造工学科 エレクトロニクスコース 電子工学分野

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiroct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311）

（概要）

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。
創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiroct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

（概要）

本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・各分野ごとに能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

エレクトロニクスコース

電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献できる高度な技術等を活用することができる高度な能力を修得した者。

電子工学分野

電子工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に「電子デバイス」「情報通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術等を活用することができる高

<p>度な能力を修得した者。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに「カリキュラムポリシー」を定めています。</p> <p>また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。</p> <p>創造工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成しています。 2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、高学年に進むに従い各分野ごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成しています。 3. 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成しています。 <p>エレクトロニクスコース</p> <p>電気工学分野と電子工学分野を融合し、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に修得できるようカリキュラムを編成しています。</p> <p>電子工学分野</p> <p>電子工学分野では、エレクトロニクスコースの中で、電子工学に関する知識、技術を総合的に学習し、電磁気学、電気・電子回路、論理回路、光・電子デバイス、通信工学、プログラム言語などの電子工学に関する基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めています。</p> <p>創造工学科</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 求める学生像 <p>工学を学ぶための基礎学力を備えた人で</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……………夢と創造性 ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……………意欲と努力 ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人…意識と改革 ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……………敬意と協調 ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……………勇気と挑戦 <p>エレクトロニクスコース</p> <p>電気工学分野と電子工学分野を融合し、電気エネルギーや計測制御と光・電子デバイス、電子制御と情報通信技術を学び、人々の安心・安全で豊かな生活を支えるために、社会基盤技術から情報通信技術までの幅広く全ての産業に貢献出来る高度な技術者を養成します。本コースでは、まずは電気・電子分野の共通基礎科目を学び、その後それぞれの専門分野を体系的に学びたい人の入学を期待しています。</p> <p>電子工学分野</p> <p>電子工学分野は、エレクトロニクスコースの中で、特に「電子デバイス」「情報</p>

通信」「電子制御」などの電子工学を中心とした技術者になるため、電磁気学、電気・電子回路、論理回路、光・電子デバイス、通信工学、プログラム言語などの電子工学に関する基礎から応用までの幅広い分野を学びます。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。

1. ICT（情報通信技術）に興味があり、新しい情報伝達の仕組み（通信）を築きたい人
2. 「もの」の仕組みに興味があり、いままでにない物質（半導体）を創りたい人
3. コンピュータで「もの」を計測したり（計測）、自動制御によってロボットを自在に動かしたい人

学部等名 創造工学科 建築デザインコース 建築学分野

教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311）

（概要）

本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

創造工学科の教育上の目的は、情報工学、機械工学、電気工学、電子工学、建築学の各専門分野を融合し、地域社会や産業界で必要とされる横断的な専門知識や問題解決能力を身につけた地域創成を担う人材を育成することとする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

（概要）

本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び各コース・分野ごとに能力を身につけ、5年間の課程を修了した者に対し卒業を認定します。

建築デザインコース

建築学分野

建築学分野に関する知識、技術を総合的に学習し、建築構造・材料、建築生産、建築環境・設備、建築計画・設計など建築学の基礎から応用までの幅広い知識・能力を習得した者。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）

（概要）

本校では、「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、創造工学科及び各コース・分野ごとに「カリキュラムポリシー」を定めています。

また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。

創造工学科

1. 第1学年では混合学級とし、国語・数学・理科・社会・英語・専門科目の基礎など、技術者に必要な教養科目を中心に編成しています。
2. 第2学年から、分野ごとに配属が決定し、高学年に進むに従い各分野ごとの専門科目が多くなるくさび形に科目を編成しています。

<p>3. 高学年では、5分野に亘る幅広い知識・技術・応用力等を身につけるため、各分野共通科目である複合融合演習等を編成しています。</p> <p>建築デザインコース 建築学分野</p> <p>建築学分野では、建築学に関する知識、技術を総合的に学習し、建築構造・材料、建築生産、建築環境・設備、建築計画・設計など建築学に関する基礎から応用までの幅広い分野を修得できるようカリキュラムを編成しています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=562）</p>
<p>（概要）</p> <p>本校では、創造工学科及び各コース・分野ごとに、受け入れたい人材の「アドミッションポリシー」を定めています。</p> <p>創造工学科</p> <p>1. 求める学生像</p> <p>工学を学ぶための基礎学力を備えた人で</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ 技術者になりたい人や「ものづくり」に興味のある人……夢と創造性 ◎ 向上心をもって学校生活に取り組もうとする人……意欲と努力 ◎ 社会の物事に疑問や関心をもち、よい社会を築こうとする人…意識と改革 ◎ 約束ごとを守り、まわりの人たちを尊重する人……敬意と協調 ◎ 失敗を恐れず、何度でも頑張ってみようとする人……勇気と挑戦 <p>建築デザインコース 建築学分野</p> <p>建築学分野は、建築の「意匠と計画」「構造と材料」「環境と設備」に関する技術を学び、「使いやすさ」や「安全性」と共に、「空間の美しさ」を追求できる高度な技術者を養成します。そのため、私たちは次のような人の入学を期待しています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 建物の形やつくり方に興味がある人 2. 暮らしやすい環境に興味がある人 3. デザインすることが好きな人

<p>学部等名 建設・生産システム工学専攻</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=269）</p>
<p>（概要）</p> <p>建設・生産システム工学専攻は、機械工学、建築学等を基盤とした共通・境界領域の知識を応用し、社会基盤分野において活躍できる応用力と創造力を兼ね備えた設計・開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>

<p>(概要)</p> <p>本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び専攻ごとに下記の能力を身につけることを達成した者に対し修了を認定します。</p> <p>○建設・生産システム工学専攻</p> <p>機械工学及び建築学を基礎とする学生に対し、本科で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げ、問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者としての能力を身につけた者。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校専攻科では、専攻科の「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、本科課程のカリキュラムポリシーを引き継ぎ、発展させて、「創造的な技術開発能力、情報の高度処理能力、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への強い貢献意識をもった高度技術者の育成」を目的としたカリキュラムを編成し、専攻ごとに定めています。</p> <p>また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。</p> <p>○建設・生産システム工学専攻</p> <p>主として、機械工学及び建築学を基礎とする学生に対し、本科で修得した基礎学力、専門的能力をさらに高い水準に上げるため、問題解決能力・豊かな発想力をより高めた実践的技術者を養成することを目的とし、カリキュラムを編成しています。</p> <p>さらに、学科の共通あるいは境界領域の分野に関しては、建築設計と機械設計の両方の視野のもとで対応できる設計・開発技術者や、地域の特色である低温環境における諸問題に対応できる技術者を育成するカリキュラム編成となっています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
<p>(概要)</p> <p>本校専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く工業に関する高度で基礎的な知識及び技術を教授します。これにより、5年間の教育で培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な解析力を駆使する技術開発能力と研究開発能力を身につけ、学際的な専門基礎知識を備えた創造型技術者の育成を目的としています。上記の目的を踏まえ、次のような人に入学してほしいと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○技術や科学の素養があり、より高度で幅広い技術の修得を目指す人 ○基本的な教養と倫理観を身につけた人 ○コミュニケーション能力の向上を目指す人 ○技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人 ○技術を身につけ、地域・社会に貢献する希望のある人

<p>学部等名 電子情報システム工学専攻</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
--

<p>ct. ac. jp/modules/pico/index. php?content_id=269)</p>
<p>(概要) 電子情報システム工学専攻は、電気、電子、情報工学等の関連工学に関する十分な基礎力と応用力を身につけ、これを活用した境界領域に関する知識を持ち、さらに、応用力と創造力を兼ね備えた研究開発能力を持つ人材を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
<p>(概要) 本校では、学則に定める所定の単位を修得し、学習目標に定める実践的・創造的技術者としての能力及び専攻ごとに下記の能力を身につけることを達成した者に対し修了を認定します。 ○電子情報システム工学専攻 電気工学、電子工学及び情報工学を基礎とする学生に対し、本科の教育で修得した基礎学力を直接活用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高め実践的技術者としての能力を身につけた者。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
<p>(概要) 本校専攻科では、専攻科の「ディプロマポリシー」に定める能力を身につけるため、本科課程のカリキュラムポリシーを引き継ぎ、発展させて、「創造的な技術開発能力、情報の高度処理能力、国際化への対応能力を総合的に兼ね備え、技術者倫理と地域への強い貢献意識をもった高度技術者の育成」を目的としたカリキュラムを編成し、専攻ごとに定めています。 また、学修の成果は、試験や課題レポートなど、各科目のシラバスに記載された評価方法により評価します。 ○電子情報システム工学専攻 主として、電気工学、電子工学及び情報工学を基礎とする学生に対し、本科の教育で修得した基礎学力を直接活用しながら、高度な専門技術を学ぶことにより、効率よく専門性を高めることができるようカリキュラムを編成しています。 さらに、互いに関連する境界領域についても学ぶことにより、専門知識に広がり応用能力を兼ね備えた創造性豊かで高度な研究開発能力を有する高度実践的技術者を養成するカリキュラム編成となっています。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=563）</p>
<p>(概要) 本校専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、より深く工業に関する高度で基礎的な知識及び技術を教授します。これにより、5年間の教育で培われてきた実践的技術者としての素養に加え、より高度な解析力を駆使する技術開発能力と研究開発能力を身につけ、学際的な専門基礎知識を備えた創造型技術者の育成を目的としています。上記の目的を踏まえ、次のような人に入学者としてほしいと考えています。 ○技術や科学の素養があり、より高度で幅広い技術の修得を目指す人 ○基本的な教養と倫理観を身につけた人</p>

- コミュニケーション能力の向上を目指す人
- 技術的課題に積極的に挑戦する意欲のある人
- 技術を身につけ、地域・社会に貢献する希望のある人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=50

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	6人	—					6人
創造工学科（一般教育部門）	—	10人	10人	4人	人	人	24人
創造工学科（情報工学分野）	—	4人	4人	人	1人	人	9人
創造工学科（機械工学分野）	—	4人	4人	1人	人	人	9人
創造工学科（電気工学分野）	—	4人	2人	2人	1人	人	9人
創造工学科（電子工学分野）	—	3人	3人	1人	2人	人	9人
創造工学科（建築学分野）	—	5人	2人	1人	1人	人	9人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
人		18人					18人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://research.kosen-k.go.jp/researcher-list/?page=1&limit=30&affiliationId=6508000000					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
創造工学科	160人	141人	88.1%	800人	686人	85.8%	若干名人	8人
合計	160人	141人	88.1%	800人	686人	85.8%	若干名人	8人
建設・生産システム工学専攻	8人	12人	150%	16人	14人	87.5%	人	人
電子情報システム工学専攻	12人	17人	141.7%	24人	31人	129.2%	人	人
合計	20人	29人	145%	40人	45人	112.5%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
機械工学科	16人 (100%)	7人 (43.8%)	9人 (56.2%)	0人 (0.0%)
電気工学科	29人 (100%)	6人 (20.7%)	22人 (75.9%)	1人 (3.4%)
電子工学科	39人 (100%)	19人 (48.7%)	19人 (48.7%)	1人 (2.6%)
情報工学科	15人 (100%)	6人 (40.0%)	7人 (46.7%)	2人 (13.3%)
建築学科	38人 (100%)	20人 (52.6%)	15人 (39.5%)	3人 (7.9%)
合計	137人 (100%)	58人 (42.3%)	72人 (52.6%)	7人 (5.1%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				
建設・生産システム工学専攻	5人 (100%)	0人 (0.0%)	4人 (80.0%)	1人 (20.0%)
電子情報システム工学専攻	14人 (100%)	6人 (42.9%)	7人 (50.0%)	1人 (7.1%)
合計	19人 (100%)	6人 (31.6%)	11人 (57.9%)	2人 (10.5%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>高専機構として運用している Web シラバスシステム上で、シラバスを作成し、公表している。シラバス記載事項のガイドラインとして教務委員会策定の「シラバス記入要領」がある。</p> <p>2020 年度のシラバスは、2020 年 2 月 7 日までに教員が入力及び自己チェック、2 月 21 日までに相互チェックを実施した。4 月 1 日に新年度シラバスを公開し、一般からの閲覧を可能とした。</p> <p>授業の初回に、科目担当教員が学生にシラバスを印刷して配布するなどして説明している。</p> <p>1 年間の授業を行う期間は、定期試験、学校行事等の期間を含め、35 週にわたるものとし、学年ごとの授業科目及び履修単位数は、別表の教育課程のとおりとする。</p> <p>なお、各授業科目の単位数は、30 単位時間（1 単位時間は標準 50 分とする。）の授業をもって 1 単位とする。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>全課程の修了の認定に必要な単位数は、167 単位以上（そのうち、一般科目については 78 単位以上、専門科目については 89 単位以上とする。）とする。</p> <p>なお、各学年の課程の修了又は卒業を認めるに当たっては、学年の平素の成績を評価して行うものとする。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A 制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
本科	創造工学科（情報工学分野）	167 単位	有・無	単位
	創造工学科（機械工学分野）	167 単位	有・無	単位
	創造工学科（電気工学分野）	167 単位	有・無	単位
	創造工学科（電子工学分野）	167 単位	有・無	単位
	創造工学科（建築学分野）	167 単位	有・無	単位
専攻科	建設・生産システム工学専攻	62 単位	有・無	単位
	電子情報システム工学専攻	62 単位	有・無	単位

G P Aの活用状況（任意記載事項）	公表方法：
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）	公表方法：

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
本科	創造工学科	234,600 円	84,600 円	約 118,810 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 教材費(教科書など)約 55,000 円 後援会費 40,000 円 寄宿料 4,200 円(入寮者のみ) 寮費 14,560 円(入寮者のみ) 寮生会入会金 1,500 円(入寮者のみ) 寮生会費 2,000 円(入寮者)
専攻科	建設・生産システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	11,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 後援会費 10,000 円
	電子情報システム工学専攻	234,600 円	84,600 円	11,550 円	スポーツ振興センター共済掛金 1,550 円 後援会費 10,000 円

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 修学支援新制度による給付奨学金や授業料減免、入学料および寄宿料等に係る免除や徴収猶予の制度の他、日本学生支援機構の貸与奨学金やウェルネット奨学金、その他の各種奨学金を取り扱っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリア教育支援委員会において、学生の就職や進学、インターンシップに関するサポートを行っており、企業ガイダンスや大学編入学説明会に関する計画の立案・実施をしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生の怪我や体調不良等の応急処置、心身に関する相談等に対応する保健室がある他、学生の全人的成長・発達に関する問題や悩みの解決に必要な助言・援助を行う学生相談室がある。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法 : https://www.kushiro-ct.ac.jp/modules/pico/index.php?content_id=311
--

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	
設置者名	

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		人	人	人
内 訳	第Ⅰ区分	人	人	
	第Ⅱ区分	人	人	
	第Ⅲ区分	人	人	
家計急変による支援対象者（年間）				人
合計（年間）				人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	人
----	---

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	人	人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下)	人	人	人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	人	人
「警告」の区分に連続して該当	人	人	人
計	人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	人
3月以上の停学	人
年間計	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	人
訓告	人
年間計	人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	人	人
GPA等が下位4分の1	人	人	人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	人	人
計	人	人	人

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。